

R2.3.02 卒業式 式辞

校長 高橋 康幸

令和という新しい時代が幕を開けました。皆さんは令和という新しい時代の最初の卒業生となりました。この新しい時代のまっただ中で、創立百二十年の伝統を持つ本校で学んだ皆さんが、明朗闊達に、そして清楚にして品位ある女生として、大いに活躍してくれることを、心から期待しています。

しかるに、新しい時代は、平穏な生活を安逸に享受できる時代ではなさそうです。むしろ、人々が今まで経験したことのないような問題を、たくさん抱えている時代といえそうです。たとえば、ここ数年毎年のように、地球の温暖化の影響と思われる異常気象により、大規模な自然災害が日本各地で発生しています。また、SNSの発達によるコミュニケーション手段の変化は、人々の生活様式や人間関係のあり方に変革を迫っています。

このような時代を切り開くには、こういった問題を乗り越えてゆく力が必要です。そしてこの力は、一般的に、自ら課題を設定し、自ら解決していく力、とされています。本校では、この力の習得を図るために、過去に行ってきたSSHや高女版SGHの経験に基づいて、現在は学年ごとの探究活動に取り組んでいるところです。また、言うまでもないことですが、この力は、何よりも、授業も、学校行事も、部活動も、あらゆることに手を抜かずに全力で取り組もうとする高女生が、日々の学校生活の中で学び取っている力でもあります。

私は、皆さんの姿を一年間見守ってきました。そして、三学期の始業式で、勉強も部活も努力している高女生、という表現は適当でないと言いました。そして、正しくは、勉強にも部活にも夢中になっている高女生、と表現すべきであると話しました。皆さんは、この高崎女子高校で三年間、勉強にも部活にも夢中になって取り組みました。したがって、自ら課題を設定し、自ら解決するという力は、しっかりと身につけたことと思います。このことを誇りとして、新しい時代をたくましく生き抜いてほしいです。

さて、卒業生を送り出すに当たり、餞の言葉を贈ります。餞の言葉として、「夢はどこにあるのか」という問いに答えたいと思います。夢はどこにあるのか、皆さんは知っていますか。実は、この問題は長い間私の中にあって、答えが出せなかった問題です。しかし、つい最近、偶然、私はこの問いの答えを見つけました。そこで、今日は、その答えを紹介したいと思います。

夢はどこにあるのか。答えは簡単でした。夢は夢中の中にありました。わかりますか。夢は夢中の中にあります。「夢中」という熟語の中には「夢」という漢字があります。最初は単なる漢字の字面での発見でした。しかし、しばらく考えている内に、ある重要なことに気が付いたのです。それは、夢中になっていることの最高到達点は夢である、ということでした。

したがって、夢は一つとは限りません。なぜなら、夢中になれることがたくさんあれば、それに応じてたくさんの夢が見つかるはずだからです。つまり、夢はいくらでも見つけることができます。だから、目の前にある、心を引かれたこと、興味を持ったことを、とりあえずやってみてください。やってみて、次第に面白くなれば、その先に必ず、夢が見つかるはずです。そして、たくさんの夢を持って生きることができるはずです。

本日、本校を卒業する三百十二名を心より祝福し、式辞を結びます。